



SYLLABUS OF EXAMINATIONS

2019～

**ペダル & ノンペダル
ハープ 受検要項
(参考抄訳)**

ABRSM シラバスについて (参考訳)

ABRSM シラバスには、一つの基本的な役目があります。それは、より多くの音楽学習者を啓発し、彼らの潜在力を発揮させることです。 ABRSM の権威ある検定と共に、専門的な指導者養成、さらに幅広く出版された資料などにより、音楽力の達成感が得られ、又、幅広い音楽力を身につけることができます。毎年、世界の 90 カ国、65 万人もの人々に対して、厳格な検定を定期的に行うことによって、ABRSM は、音楽評価の世界基準を確立しています。検定では、年齢、学習期間、学校の必須科目などに関係なく、一生を通じて音楽を学ぶことが出来るのです

グレード検定は、器楽、声楽、ジャズ、アンサンブル、プラクティカル ミュージシャンシップ、そして、理論の 35 もの分野に及んでいます。多くの生徒は、グレード 1 の前の、プレップテスト (易しいテストで、励みとなるアドバイスが得られる) から検定をスタートし、グレード 8 まで進みますが、受検の決まったパターンはありません。グレード 8 以上を望む人は、3 つの専門分野でのディプロマ検定があります。それぞれの分野で、DipABRSM、LRSM、FRSM の 3 つのレベルがあります。又、若い学習者の為に、楽しく実りある「ミュージック メダル」による評価があり、そこでは、グループで楽しく学ぶことにより、基礎的な音楽力が育まれるのです。

シラバスには、検定員やスペシャリストのみならず、幅広い指導者の意見が反映され、特定の指導法にとらわれることなく、全ての人々の納得がいくものとなっています。シラバスは、器楽や声楽の為のカリキュラムではなく、あくまで、評価を目的とする為に設定された基準です。学習者は具体的なモチベーションを持ち、高い技術的水準にむかっただけの演奏の機会と、オールラウンドな音楽力を身につけることが出来るのです。

演奏検定は、バランスのとれたレパートリーを中心に、テクニック課題、初見演奏、そしてオーラルテストから成り立っています。音楽の各要素をよく理解し、それを表現する為の幅広いスキルを身につけることは、とても大切なことです。そのため、グレード 6 以上の受検には、理論検定或いはプラクティカル・ミュージシャンシップにおけるグレード 5 以上の取得が必要とされています。

検定を受けるのは、容易な事ではないかもしれませんが、しかし私たちは、この経験を前向きに、楽しみながら出来るようにあらゆる工夫をしています。経験豊かで、高度の訓練を受けた検定員は、演奏家を育てることに熱心であることが重要視され、その検定基準は一貫性を保っています。(各シラバスの巻末にある、採点基準に照らし合わせて採点が行われます)。 検定は結果よりも、そのために準備したことが力となり、検定によって得られる達成感はそのだけで、価値のあるものなのです。

ナイジェル スカイフ (シラバス ディレクター)

受検にあたって（各科目共通）

この項は、音楽検定規定集からの抜粋です。併せて参照のこと。

- a 受検者はどの科目からでも受検することができます。
- b 指導者および受検者は前ページに記載されている規定をよく読み、特に曲目リストについては注意を払うこと。一曲とは曲目リストの番号にある曲全体を指します。
(ほかに指定されている場合を除いては) したがって、一曲は数楽章にわたる場合や曲集の中の数曲をさす場合もあります。
- c 曲または楽章の設定テンポは要項の中に適宜、(時にはタイトルとして)指示されています。曲中又は楽章内に 2 つ以上のテンポ指示がある場合でも、(特別の指示がある場合を除き)曲全体が演奏されなければなりません。
- d 要項を逸脱した受検者には(曲目リスト以外の曲を演奏したり、曲を完奏できなかったりした場合など)ペナルティーが科せられるか、場合によっては失格となります。
- e ABRSM では課題曲の移行期間を設けています。これにより前年度の課題曲で受検することも可能です。(但し、混在しての受検は不可)
- f 編曲の指定がされている場合を除き、受検者は課題曲のどの版を用いてもかまいません。要項に示されている出版社はあくまでも参考のためのもので強制ではありません。
- g 受検者は指示された楽語や記号(特に編纂されている場合)一すなわち、速度記号、指使い、フレージング、装飾音のつけ方など一については選択することが出来ます。このような指示がない場合は受検者自らの音楽性に基づいて選択がなされます。
- h 受検者は *da capo* と *dal segno* に気をつけること。ただし、特に指示がないかぎり 2.3 小節以上にわたる繰り返しは**演奏されない**ものとします。
- i 暗譜での演奏は任意です。演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての受検者でも必ず楽譜をご用意ください。
- j 検定員の判断で、演奏を途中でとめる場合もあります。
- k 評点基準: 150 点のうち 100 点 (全体の 66%) が必要です。 120 点以上でメリット(優) 130 点以上でディスティンクション(秀)の評価が与えられます。又、各項目において必ずしも 66%を獲得しなければならない、というわけではありません。
- l 英国の法の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合(譜めくりが極端に困難など)に限り、コピーが認められます。その他の場合においてはコピーをとる前に申請が必要です。この事項において受検者に法を遵守させるのは受検申請者の責任です。万が一検定において違法なコピーが行われていることが発覚した場合、ABRSM は検定結果を保留する権利を有するものとします。

2019 要項 ハープ抜粋

ハープ実技検定

この項では、ハープグレードを受検するに当たって、指導者、受検者が知っておくべき、最重要事項が述べられています。詳細について、受検申し込み手続き等については、「ABRSM 規定集」を参照のこと。

2019 変更点

- ・今年度から、ハープ受検に際してはペダル・ハープとノンペダル・ハープを厳密に区別することとなりました。
- ・エントリーフォーム、マークフォーム、合格証書に、この区別が記載されます。
- ・その為に、別々の要項が作成されております。
- ・課題曲の変更は以下を除いてはありません。グレード1（両方のハープ）、グレード2（同様）、及びグレード8（ノンペダル・ハープ）。又前年度の課題曲は2019年12月まで有効となります。
- ・その他のスケール、アルペジオ、初見演奏についての変更は、ありません。
- ・譜めくりに関する記載には、十分留意ください。
- ・グレード8取得後の情報も記載されております。
- ・この要項はオンラインにて配布され、印刷物はありません。

受検申し込み

- **資格**：検定レベルはグレード1-8に分かれ、受検者は年齢、過去の受検履歴にかかわらず、どのグレードからでも受検することができます。ただし、グレード6以上の受検には、申し込み時までに音楽理論、又はプラクティカル・ミュージシャンシップのグレード5以上の事前取得が条件となっています。
- **申し込み方法**：受検日程、申し込み締切、検定会場、検定料等については、その都度下記の日本代表事務局のHPでご確認願います。 www.kakehashi-foundation.jp/abrs/m/ 尚、視覚、聴覚及び身体障害をお持ちの方は、遠慮なくお申し出下さい。別途対応いたします。

楽器について

ペダル・ハープ：グレード4以上は、46弦以上のもの。

ノンペダル・ハープ：グレード3以上は、E♭チューニングにて34弦以上（最低弦は中央Cから2オクターブ低いC音、或いはそれより低い音であること）。グレード1&2は、C、E♭、及びFチューニングであること。

検定の配点

- 検定の配点は以下の通りです。(グレード1～8)

スケール・アルペジオ	21点
課題曲1	30点
課題曲2	30点
課題曲3	30点
初見演奏	21点
オーラルテスト	<u>18点</u>
総合点	150点

評点規準：150点のうち、合格には100点（全体の66%）が必要です。120点以上で優（メリット）、130点以上で秀（ディステインクション）の評価が与えられます。又、各項目において必ずしも66%を獲得しなければならない、というわけではありません。

課題曲

- 受検者は課題曲3曲を選ぶに当たって、対比とバランスを考慮に入れ、A,B & C各曲目リストから1曲ずつ選曲します。受検者は、その場にて検定員に曲目を告げなければなりません。要項の巻末にある曲目リストに記入して提出する事もできます。
- **楽譜と出版社**：編曲の指定がされている場合を除き、受検者は課題曲のどの版を用いてもかまいません。要項に示されている出版社はあくまでも参考のためのもので強制ではありません。
- **楽譜の解釈**：記載されている指使い、速度、装飾音符の弾き方などは、厳密に守られる必要はありませんが、様式に適った演奏が望ましいのは言うまでもありません。演奏にあたっては、音符やリズムが正しく弾けるだけではなく、タッチ、音色の使い分け、拍感、細かな表情の変化、フレージングなどがどのようにコントロールされ、音楽を形作っているかが評価の対象になります
- **繰り返し(リピート)**：*da capo* と *dal segno* は、必ず守ってください。ただし、特に指示がない限り2,3小節以上にわたる繰り返しは演奏されないものとします。
- **暗譜**：暗譜での演奏は任意です。演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての受検者も必ず楽譜をご用意ください。また、暗譜の有無が評点に影響することは、ありません。
- **譜めくり**：検定中、譜めくりが困難が生じたとしても、それが採点に響くわけではありません。譜めくりしにくいページはコピーを用意することもあるかもしれません。譜め

くりが決定的に困難と判断された場合は、所定の許可の手続きを経た上で、譜めくり者を同伴することも可能です。詳しくは代表事務局にお問い合わせください。

- **コピー**：英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、
『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合（譜めくりが極端に困難など）に限り、コピーが認められます。その他の場合においてはコピーをとる前に申請が必要です。この事項において受検者に法を遵守させるのは受検申請者の責任です。万が一検定において違法なコピーが行われていることが発覚した場合、ABRSMは検定結果を保留する権利を有するものとします。

スケール、アルペジオ／分散和音

- 全グレードにおいてスケール/アルペジオは、各項目につき、最低一問出題されます。速度については、本文4ページを参照のこと。
- 全てのスケール/アルペジオ/分散和音は、
 - ・ 暗譜で弾くこと
 - ・ 指定されている範囲（とパターン）で、上行、下行で
 - ・ 音のつぶをそろえ、正確、かつ明瞭に、安定したリズムで演奏すること。
- 指使いは、それが音楽的に有効で且つ理にかなっていればテキストの例と違ってても受け入れられます

初見演奏

- 受検者、は約30秒の予見時間が与えられ、その間、試奏をしてもよいことになっています。初見演奏の概要はグレード毎に、この要項に書かれています。提示された範囲はそれ以降の上位のグレードにも適用されます。各グレード対応の初見演奏の問題集も、出版されています。

オーラル・テスト：全ての実技検定において実施されます

「聴くこと」は、良い音楽を創る基礎であります。「音楽的な耳をもつ」ことは、音楽力の決定的な要素であり、音楽の訓練の基礎となるものです。声に出しても、出さなくても「うたうこと」は、「音楽的な耳」を育むのに最良の方法です。楽器で音を探すのではなく（それ自体は意味のあることですが）、「内なる耳」で、聴くことにより、音のイメージを創り、音として表すことができるのです。レッスンの中で、このようなイメージトレーニングをすることにより、オーラル・テストの準備は自然と行われ、検定へと結びつくのです。

オーラル・テストは、検定員によりピアノを用いて行われます。歌うことを要求される問題では、声の美しさよりも、音程の確かさが重視されます。歌い方は「ラ」あるいは母音唱、ハミングなどいずれでもよろしい。検定員は受検者の声域を配慮の上で出題します。変声期の方は、口笛を吹いたり、1オクターブ下げて歌うこともできます。

評価

いくつかのテストでは、必要に応じてやり直しが認められています。又、受検者に躊躇が見られる場合は、検定員がヒントを与えることもあります。これらのケースは、評価に影響を与える場合もあります。

実際どのようにオーラル・テストが行われるかについては、*These Music Exams* を参照のこと。

聴音例題集

オーラル・テストの実例は、「聴音例題集」及び、「聴音指導書」を参考にしてください。これらは、日本代表事務局で購入できます。

聴覚に障害のある受検者

聴覚障害を持つ受検者は、通常のオーラル・テストの代わりに特別の試験を受けることができます。受検申し込みの際に、お申し出ください。

2011年以降の部分的変更

2011年以降のオーラル・テストの部分的変更については、下記の URL でご確認ください。
www.abrsm.org/aural 又、変更された要素と問題例については、「聴音例題集」「聴音指導書」(改訂版)に、詳しく書かれています。以下に述べられている各グレードのオーラル・テストの説明も、ご熟読ください。

オーラル・テスト：グレード1

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B 長調の限られた音域内の3音からなる短いフレーズが3題弾かれますので、それぞれのフレーズの後に**続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の2小節のフレーズが2回弾かれます。**2回目に音の高さが変わっていますので、その箇所が初めの部分か、終わりの部分か**を答えてください。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス (p/f、強さの変化) ②アーティキュレーション(スタッカート/レガート)についてです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード2

- A 2拍子、または3拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子を答えてください**。
- B 長調の限られた音域内の5音からなる短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれのフレーズの後に**続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C 長調の2小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム或いはメロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌/手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス (強弱/強さの変化)、アーティキュレーション(スタッカート/レガート)、②テンポの変化 (速くなった/遅くなった/変わらない) に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード3

- A** 2拍子、3拍子または4拍子のパッセージが弾かれますので、**拍を打つこと**。検定員がパッセージを弾き始めたら、受検者はそれに合わせてすぐに拍をうってください。その時、強拍にアクセントをつけること。その後、**拍子**を答えてください。
- B** 長調または短調で1オクターブ内の短いフレーズが**3題**弾かれますので、それぞれの**フレーズの後に続いて歌うこと**。各フレーズが弾かれた後、間を置かずに正しい拍子でうたうこと。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。
- C** 長調又は短調の4小節のフレーズが2回弾かれますので、**リズム**或いは**メロディーの違い**を答えてください。説明でも、歌／手拍子で答えてもかまいません。はじめに主和音と主音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- D** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス（強弱／強さの変化）、アーティキュレーション（スタッカート／レガート）、テンポの変化（速くなった／遅くなった／変わらない）②調性（長調／短調）に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。

オーラル・テスト：グレード4

- A** 4小節の旋律が2回弾かれますので、それを**覚えて歌う（あるいは弾く）こと**。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** 指定されたスコアを見て、**5つの音を歌うこと**。出題は、ハ(C)、へ(F)、ト(G)のいずれかの長音階の主音より上下3度までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。
- C1** 検定員がピアノを弾きますので、**その曲に関する2つの質問に答えてください**。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性 ②曲の特徴に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C2** C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、その**リズムを打つこと**。次にその曲が**2,3,4**のいずれの拍子であるかを答えてください。

オーラル・テスト：グレード5

- A** 短い旋律が2回弾かれますので、それを覚えて歌う（あるいは弾く）こと。旋律はシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と初めの音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** 指定されたスコアを見て、6つの音を歌うこと。出題は、シャープ、フラット2つまでの、いずれかの長音階の主音より5度上、4度下までの音域内で、主音で始まり主音で終わります。跳躍音程が3度を超えることはありません。はじめに主和音、主音とその音名が与えられます。検定員は必要に応じて、音を弾きます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかを、選択出来ます。
- C1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は、①ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、②形式、時代様式に関するものです。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- C2** C1の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください。

オーラル・テスト：グレード6

- A** 二声のフレーズが2回弾かれますので、上声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** スコアを見て、伴奏にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット3つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)半終止(imperfect)の基本形に限られます。初めに主和音が与えられます。
- D1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。出題範囲は①曲における音の重なり(texture)、形式 ②ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、のうち一つです。
- D2** 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4のいずれの拍子であるかを答えてください

オーラル・テスト：グレード7

- A** 二声のフレーズが2回弾かれますので、下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。フレーズはシャープ、フラット3つ以内の長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- B** スコアを見て、下声部の伴奏（検定員による）にあわせて旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット4つまでの、長調または短調で1オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、ヘ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C1** フレーズが2回弾かれますので、終止形を答えてください。出題は、完全終止(perfect)半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)の基本形に限られます。初めに主和音を与えられます。
- C2** 上記 C1 の終止形における2つの和音を答えること。範囲はトニック(主和音-I)、サブドミナント(下属和音-IV)、ドミナント(属和音-V)、ドミナント7th(属七の和音-V7)、およびサブミディアント(下中和音-VI)の各基本形に限られます。調名と主和音が与えられた後、2つの和音が続けて弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカルネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。
- C3** 長調で始まる短いパッセージが弾かれますので、転調を答えてください。出題は属調、下属調、平行短調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音を与えられます。
- D1** 検定員がピアノを弾きますので、その曲に関する2つの質問に答えてください。質問の範囲は、ダイナミクス、アーティキュレーション、テンポ、調性、曲の特徴、時代様式、音の重なり、および形式です。曲を弾く前に質問事項が告げられます。
- D2** 前の曲より抜粋されたフレーズが2回弾かれた後、そのリズムを打つこと。次にその曲が2,3,4 或いは6/8 のいずれの拍子であるかを答えてください。

オーラル・テスト：グレード 8

- A1** 三声のフレーズが 2 回弾かれますので、最下声部を覚えて歌う（あるいは弾く）こと。フレーズはシャープ、フラット 3 つ以内の長調または短調で 1 オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- A2** 長調又は短調のフレーズが 2 回弾かれますので、終止形を教えてください。出題は、完全終止(perfect)、半終止(imperfect)、偽終止(interrupted)、変格終止(plagal)に限られません。終止形を作る和音の範囲は、トニック(主和音－I)の基本形、第 1,2 転回形、スーパーニック(上主和音－II)の基本形、第 1 転回形、サブドミナント(下屬和音－IV)の基本形、ドミナント(属和音－V)の基本形、第 1,2 転回形、ドミナント 7th(属七の和音－V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音－VI)の基本形です。初めに主和音が与えられます
- A3** 上記の終止形における 3 つの和音と転回形を教えてください。出題は、トニック(主和音－I)の基本形、第 1,2 転回形、スーパーニック(上主和音－II)の基本形、第 1 転回形、サブドミナント(下屬和音－IV)の基本形、ドミナント(属和音－V)の基本形、第 1,2 転回形、ドミナント 7th(属七の和音－V7)の基本形、及びサブミディアント(下中和音－VI)の基本形です。初めに主和音が与えられ、次に 3 つの和音が続けて弾かれます。その後それぞれの和音がもう一回ずつ弾かれます。ローマ数字や、コードネーム、あるいはテクニカル ネーム(トニック、ドミナントなど)で答えてもよろしい。
- B** スコアを見て、上声部の演奏にあわせて下声部の旋律を歌うこと。出題は、シャープ、フラット 4 つまでの、長調または短調で 1 オクターブの範囲です。主和音と開始音が弾かれ、拍子が与えられます。又、ト音記号、へ音記号のいずれの楽譜で歌うかは、選択も出来ます。必要に応じてやり直しができますが、評価へ影響を与える場合もあります。
- C** 2 つの短いパッセージが、各々一回ずつ弾かれますので、転調を教えてください。一つめは長調で始まり、次は短調で始まります。出題は属調、下屬調、平行調への転調に限られます。転調先の調名を答えてもよろしい。初めに調名と主和音が与えられます。
- D** 検定員が曲を弾きますので、その曲のテクスチャー、構成、特徴、時代様式などについてディスカッションします。必要に応じて、検定員がヒントを与えることもあります。

グレード 1

スケールとアルペジオ： 暗譜にて、指定された調で

ペダル ハープ ハ、ト、ニ、ヘ 変口の各長調で 1 オクターブ

ノンペダル ハープ 以下のグループから、ひとつ選択して 1 オクターブ

グループ 1: ハ、ト、ニ 各長調

グループ 2 : 変ホ、変ロ、ハ、各長調

グループ 3: ヘ、ハ、ト各長調

スケール: 上記の調で、片手ずつ

アルペジオ: 上記の調の主和音を基本形のみで、片手ずつ

グレード 2

スケールとアルペジオ： 暗譜にて、指定された調で

ペダル ハープ 次の各調で 2 オクターブ

ハ、ト、ニ、ヘ 変口長調

イ、ホ、ニ 各短調

ノンペダル ハープ 以下のグループから、ひとつ選択して 2 オクターブ

グループ1: ハ、ト、ニ、イ 各長調 / イ、ホ 各短調

グループ2: 変ホ、変ロ、ハ、ト 各長調 / ハ、ト 各短調

グループ3: ヘ、ハ、ト、ニ各長調 / ニ、イ 各短調

スケール: 上記の調 (短調音階の種類は受検者が選択) で、片手及び両手(1 オクターブ間隔)

アルペジオ: 上記の調の主和音を基本形のみで

- i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手
- ii) 譜例(英文 32 ページ)のように、両手で分散させて

グレード 3

スケールとアルペジオ: 暗譜にて、指定された調で

ペダル ハープ 2 オクターブ
ハ、ト、ニ、イ、ホ、ヘ、変ロ、変ホ 各長調
イ、ホ、ニ、ト、ハ 各短調

スケール:上記の調 (短調は和声的音階のみ) で、片手及び両手(1 オクターブ間隔)

アルペジオ:上記の調の主和音を基本形のみで

- i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手 (2 オクターブ)
- ii) 譜例(英文 33 ページ)のように、両手で分散させて (3 オクターブ)

ノンペダル ハープ 2 オクターブ
変ホ、変ロ、ヘ、ハ、ト、ニ 各長調
ハ、ト、ニ、イ、ホ、各短調

スケール:上記の調 (短調は和声的音階のみ) で、片手及び両手(1 オクターブ間隔)

アルペジオ:上記の調の主和音を基本形のみで

- i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手 (2 オクターブ)
- ii) 譜例(英文 33 ページ)のように、両手で分散させて (3 オクターブ)

グレード 4

スケールとアルペジオ: 暗譜にて、指定された調で

ペダル ハープ 3 オクターブ
ハ、ト、ニ、イ、ホ、ヘ、変ロ、変ホ、変イ 各長調
イ、ホ、ニ、ト、ハ、ヘ 各短調

スケール:上記の調 (イ、ホ、ニ、及びト短調は和声的音階のみ、ハ、ヘ短調は和声又は旋律的音階) で、片手及び両手(1 オクターブ間隔)

アルペジオ:上記の調の主和音を基本形および第一転回形で

- i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手 (3 オクターブ)

ii) 譜例(英文 34 ページ)のように、両手で分散させて (4 オクターブ)

ノンペダル ハープ 2 オクターブ

変ホ、変ロ、ヘ、ハ、ト、ニ、イ、ホ 各長調

ハ、ト、ニ、イ、ホ、各短調

スケール:上記の調 (短調は和声的音階のみ)

i) 片手及び両手(1 オクターブ間隔)で

ii) ハ、イ短調は、旋律的音階にて右手のみ

アルペジオ:上記の調の主和音を基本形および第一転回形で

i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手 (2 オクターブ)

ii) グレード 3 の例のように、両手で分散させて (3 オクターブ)

グレード 5

スケールとアルペジオ: 暗譜にて、指定された調で

ペダル ハープ ダブルシャープ、ダブルフラットを伴わない全ての長調、短調
(3 オクターブ)

スケール:上記の調 (短調は和声的および旋律的音階)で、片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手

アルペジオ:上記の調の主和音を基本形および第一転回形で (ハ、ヘ長調および短調は第二転回形も)

i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手 (3 オクターブ)

ii) グレード 4 の例のように、両手で分散させて (4 オクターブ)

属 7 の和音:ハ、ヘ、ト、変ロの各調を基本形で

i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手(3 オクターブ)(英文 36 ページ譜例参照)

ii) 両手で分散させて (4 オクターブ)(譜例参照)

ノンペダル ハープ 2 オクターブ

変ホ、変ロ、ヘ、ハ、ト、ニ、イ、ホ 各長調

ハ、ト、ニ、イ、ホ、各短調

スケール:上記の調で (短調は和声的音階のみ)

- i) 片手及び両手(1 オクターブ間隔)で
- ii) ハ、ニ、イ短調は、旋律的音階にて右手のみ

アルペジオ: 上記の調の主和音を基本形および第一転回形で (ハ、ヘ長調および短調は第二転回形も)

- i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手 (2 オクターブ)
- ii) グレード 3 の例のように、両手で分散させて (3 オクターブ)

属 7 の和音: ハ、ヘ、ト、変口の各調を基本形で

- i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手(2 オクターブ)(英文 36 ページ譜例参照)
- ii) 両手で分散させて (3 オクターブ)(同ページ最下段の譜例参照)

グレード 6 受験には理論、又はプラクティカルミュージシャンシップ G5 以上の事前取得が必要です

スケールとアルペジオ: 暗譜にて、指定された調で

ペダル ハープ ダブルシャープ、ダブルフラットを伴わない全ての長調、短調 (4 オクターブ)

スケール: 上記の調 (短調は和声的および旋律的音階)で、片手ずつ及び 1 オクターブ及び 6 度間隔で両手

アルペジオ: 上記の調の主和音を基本形および第一、第二転回形で

- i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手
- ii) グレード 4 の例のように、両手で分散させて

属 7 の和音: ハ、ヘ、ト、変口の各調を基本形および第一転回形で

- i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手(3 オクターブ)
- ii) グレード 5 のように両手で分散させて (4 オクターブ)

ノンペダル ハープ 2 又は 3 オクターブ、演奏可能な範囲で
変ホ、変ロ、ヘ、ハ、ト、ニ、イ、ホ 各長調
ハ、ト、ニ、イ、ホ、各短調

スケール: 上記の調で (短調は和声的音階のみ)

- i) 片手及び両手(1 オクターブおよび 6 度間隔)で
- ii) 短調は、旋律的音階にて右手のみ

アルペジオ:上記の調の主和音を基本形および第一、第二転回形で

- i) 片手ずつ及び1オクターブ間隔で両手
- ii) グレード3の例のように、両手で分散させて(3オクターブ)

属7の和音:ハ、ヘ、ト、変口の各調を基本形および第一転回形で(3オクターブ)

- i) 片手ずつ及び1オクターブ間隔で両手
- ii) グレード5のように両手で分散させて

グレード7 受験には理論、又はプラクティカルミュージシャンシップG5以上の事前取得が必要です

スケールとアルペジオ: 暗譜にて、指定された調で

ペダル ハープ ダブルシャープ、ダブルフラットを伴わない全ての長調、短調(4オクターブ)

スケール:上記の調(短調は和声的および旋律的音階)で、

- i) 片手ずつ及び1オクターブ、6度及び10度間隔で両手
- ii) 1オクターブ間隔で始まる反進行(短調は和声的音階のみ)(2オクターブ)

アルペジオ:上記の調の主和音を基本形および第一、第二転回形で

- i) 片手ずつ及び1オクターブ間隔で両手
- ii) グレード4の例のように、両手で分散させて

属7の和音:ハ、ヘ、ト、変口の各調を基本形および第一、第二転回形で

- i) 片手ずつ及び1オクターブ間隔で両手
- ii) グレード5のように両手で分散させて
- iii) 譜例のように、基本形を両手で分散させて

ノンペダル ハープ 2又は3オクターブ、演奏可能な範囲で

変ホ、変ロ、ヘ、ハ、ト、ニ、イ、ホ 各長調

ハ、ト、ニ、イ、ホ、各短調

スケール:上記の調で(短調は和声的音階のみ)

- i) 片手及び両手(1オクターブおよび6度間隔)で
- ii) 短調は、旋律的音階にて右手のみ
- iii) 1オクターブ間隔で始まる反進行(短調は和声的音階のみ)(1オクターブ)

アルペジオ:上記の調の主和音を基本形および第一、第二転回形で

- i) 片手ずつ及び1オクターブ間隔で両手
- ii) グレード3の例のように、両手で分散させて(3オクターブ)

属7の和音:ハ、ヘ、ト、変口の各調を基本形および第一転回形で(3オクターブ)

- i) 片手ずつ及び1オクターブ間隔で両手
- ii) グレード5のように両手で分散させて
- iii) 譜例のように、**基本形**を両手で分散させて(3オクターブ)

グレード8 受検には理論、又はプラクティカルミュージシャンシップG5以上の事前取得が必要です

スケールとアルペジオ: 暗譜にて、指定された調で

ペダル ハープ ダブルシャープ、ダブルフラットを伴わない全ての長調、短調(4オクターブ)

スケール:上記の調(短調は和声的および旋律的音階)で、

- i) 片手ずつ及び1オクターブ、6度及び10度間隔で両手
 - ii) 1オクターブ及び6度、10度間隔での反進行(短調は和声的音階のみ)
- (2オクターブ)

アルペジオ:上記の調の主和音を基本形および第一、第二転回形で

- i) 片手ずつ及び1オクターブ間隔で両手
- ii) グレード4の例のように、両手で分散させて
- iii) 譜例のように、**基本形**を両手で分散させて

属7の和音:全ての調を基本形および第一、第二転回形で

- i) 片手ずつ及び1オクターブ間隔で両手
- ii) グレード5のように両手で分散させて
- iii) グレード7のように、**基本形**を両手で分散させて

減7の和音:嬰ハ、嬰ヘ、及び嬰トの各音から始まる

- i) 片手ずつ及び1オクターブ間隔で両手
- ii) 譜例のように両手で分散させて

ノンペダル ハープ 2 又は 3 オクターブ、演奏可能な範囲で
変ホ、変ロ、ヘ、ハ、ト、ニ、イ、ホ 各長調
ハ、ト、ニ、イ、ホ、各短調

スケール: 上記の調で (短調は和声的音階のみ)

- i) 片手及び両手(1 オクターブおよび 6 度間隔)で
- ii) 短調は、旋律的音階にて右手のみ(3 オクターブ)
- iii) 1 オクターブ及び 6 度間隔で始まる反進行(短調は和声的音階のみ)
(1 オクターブ)

アルペジオ: 上記の調の主和音を基本形および第一、第二転回形で

- i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手
- ii) グレード 4 の例のように、両手で分散させて (3 又は 4 オクターブ、演奏可能な範囲で)
- iii) 譜例のように、**基本形**を両手で分散させて(3 オクターブ)

属 7 の和音: ハ、ヘ、ト、変ロの各調を基本形および第一転回形で

- i) 片手ずつ及び 1 オクターブ間隔で両手 (3 オクターブ)
- ii) グレード 5 のように両手で分散させて (4 オクターブ)
- iii) 譜例のように、**基本形**を両手で分散させて(4 オクターブ)